

溝口 駿（復興支援員）

/ 平成31年1月～

「震災からの復興には、まちの賑わいが不可欠」そんな思いから復興支援員として、昨年オープンした道の駅を拠点に町内外の交流を生む様々なイベントを企画・運営してきました。令和元年度だけで17回のイベントを開催。その他商工会青年部が開催した復興イベントにも参画するなど、年間85万人を記録した道の駅への来場者数の獲得をはじめ、町の交流人口増加に大きく貢献しました。特に道の駅におけるイベントでは、町内外で活躍する各種企業・団体とのタイアップやかかわる人々との交流を意識した“次に繋がる賑わいづくり”を心がけているそうです。



河嶋 愛基（学びサポート推進員）

/ 平成31年4月～

教えない学習教室「あびらば」を運営してきました。令和元年6月から追分と早来で週2回の通常プログラムを行い、合計23名の小中学生が参加しました。「冒険」「学び」「記憶」をテーマに行った3つの「探究授業（テーマを深掘りして自分の知らない視点や考え方に会おう授業）」では、参加した生徒がたくさんの新しい気づきと出会い、目を輝かせていました。また、あびらば主催イベントとして、新千歳空港で外国人旅行者に対して北海道に来た理由を聞く『WHY北海道へ？』、北海道大学に1日限定で入学する『1日北大生体験』、HBC北海道放送およびクックパッド株式会社と共催した『オリジナル災害食&絵本づくり』など、様々な企業・団体とコラボしたユニークな企画を計12回行い、合わせて180人が参加しました。



台 正人（復興支援員）

/ 平成31年1月～

「安平町の復興に関する情報発信全般」の担当として、Facebookやインスタグラムを活用して、安平町復興ボランティアセンターの活動や道の駅イベント情報を発信してきました。1年間で45もの活動・イベントを取材・発信してきたことで、交流人口の増加と安平町ファンの獲得に貢献しました。情報発信を行う時は「誰に向けて情報を発信するか？」を考え、読み手がワクワクするような書き方を意識しています。「安平町の台くんが発信する情報は面白い」といった評判はマスメディアにも広がっており、令和元年6月から苫小牧民報で全16回のコラムを書いたりもしています。

